福島教区報

教会数　123ヶ所
布教所数　114ヶ所
よふぼく数　3463人
（R176.12末現在）

天理教福島教務支庁
〒960-8022 福島市新浜町7番26号
TEL 024-534-2251 / FAX 024-534-2404

謹賀新年

教祖百三十年祭の年
親里おぢばへ、たすけの里おぢばへ

謹んで立教百七十九年の新春のご祝辞を申し上げます。

昨年は、教祖百三十年祭・年祭活動仕上げの年に当たり、『諭達第三号』の思いに沿い、存命の教祖にお喜びいただけるようお互い信仰活動に励んでまいりました。とりわけ各直属教会単位での別席団参が打ち出され、これの福島の地からも皆様方の声かけによって、大勢の方々が親里おぢばにお帰りになったことと存じます。

また、福島教区の諸活動の上にも、年祭活動仕上げの年との思いを高めて、それぞれと並々ならぬお力添えを賜りました。

昨年一年、大変な中、旬の御用の上にご尽力ご丹精を賜りましたことに、改めて厚く御礼を申し上げます。誠に有難うございました。

明けて本年は、いよいよ教祖百三十年祭の大切な年を迎えました。来る1月26日まで、自分に出来るおたすけ活動を進め、その成果を教祖にご報告申し上げたいと存じます。

10年に一度の教祖の年祭の年です。10年間の教祖からのお導きとご厚恩に感謝を申し上げ、次なる年祭へ向かってのお誓いとお願いの気持ちをもって、親里おぢばへ、たすけの里おぢばへ、声をかけ合って帰らせていただきたいと存じます。

福島教区にあっては、次なる塚へ向かって、新たなスタートをきる時期を迎えました。この福島の地で陽気ぐらしの輪が広がるよう、今後も地域活動を進めさせていただきたいと存じます。引き続き、教区、各支部、各部各会のそれぞれの活動の上に、ご尽力ご丹精の程を賜りますようお願い申し上げ、新年の挨拶といたします。

教区長　平澤勇一

福島教区本年前半の主な行事予定

3月26～30日　春の学生おぢばがえり団参
4月2日　教区祭
4月29日　全教一斉ひのきしんデー
5月29日　基礎講座（福島テルサ）開催
6月3日　婦人会総会

教祖百三十年祭
1月26日 10時30分執行

布教部

全教一斉にをいがけデー

9月はにをいがけ強調の月

年祭活動仕上げの年の9月。「にをいがけ強調の月」として、それぞれの地域で積極的ににをいがけ活動が展開された。

また、9月28日から30日の3日間は「ようぼく実動の日」、28日は「教会長路傍講演の日」と定めて、各支部ごとに計画を組み、一人でも多くの実動を目指し実施された。

全教一斉にをいがけデー（9月28日～30日）　参加者数

	路傍講演参加者	にをいがけデー参加者	リーフレット等配布数
福　島	6	14	1885
安　達	0	52	4501
郡　山	2	11	540
田　村	10	24	1026
耶　麻	10	49	1592
会　津	5	62	1509
いわき	16	35	600
相　双	0	2	160
合　計	49	249	11813

（教区布教部報告分）

青年会

「青年会東北ブロック大会」開催

10月3日（土）～4日（日）、福島教区青年会（荒井弘徳委員長）が担当で「青年会東北ブロック大会」が開催され、東北各教区から71名の青年会員、女子青年が参加した。内、福島教区からは22名の参加だった。

福島教務支庁に集合した参加者は、まず、平澤勇一教区長の講話を聞かせていただいた。その後、参加者に少しでも青年会活動に参加してもらおうという思いから、教務支庁周辺で、地域活動の柱であるハートクリーンキャンペーン活動としてゴミ拾いと、教祖年祭活動仕上げの旬の布教実動として神名流しを、それぞれのグループに分かれて行った。

続いて、福島市内の「フットサルフィールド・マックスファンタジスタ」へと会場を移動してフットサルを教区対抗の8チームで行った。秋田教区が優勝という結果で終わったが、1つのボールを追い汗を流す中、プレイする人も応援する人も大いに盛り上がり、お互いの親睦は深まった。

最後は、飯坂温泉『華滝』を会場に懇親会を持ち、教区の枠を超えて、お互いの親睦をさらに深め合い、教祖年祭へ残された4ヶ月、励ましあいながら最後まで一生懸命通り切ることを誓い合った。（H・A）

道友社

「東北ブロック社友研修会」に参加

10月29日・30日、秋保温泉緑水亭（宮城教区）にて開催された。福島教区からは主事1名、支部社友2名で参加。

宮城教区長の挨拶、講師紹介に続き、道友社次長・安藤正治先生が「天理時報の普及・活用・推進に向けて道友社の取り組み」と題して講話を行った。天理時報の現状を説明し、「社会の現状に合った記事内容は必要だが、世の中がいかに変わっても教理は変わってはいけない」こと、自らの天理時報の手配りの経験を通して、身近なところに購読者がいることに驚き心強さを感じたことを述べた。また、取材記事の秘話を紹介。「見せられたご守護を通して、おたすけのできるようぼくへ成人する姿を親神様・教祖に見せられるように、喜んでもらえるように努めることが大切であり、たすけ一条の喜びを感じるようになって欲しい。」と述べた。

続いて、加藤道治課員が「インターネット時代の道友社としての取り組み」と題して、活字離れとテレビなどのメディア視聴の激減の状況と、一方でインターネット使用の割合の増加をグラフによって説明した。また、道友社ホームページの人気コンテンツを紹介。最後に、「インターネットに興味のない人にいかに情報を届けるかを検討していかなければならない。」とまとめた。（I・H）

道の教職員の集い

「東北ブロック地域役員研修会」に1名参加

10月31日（土）～11月1日（日）、岩手県盛岡市のつなぎ温泉　清温荘で「東北ブロック地域役員研修会」が開催され、東北各教区から22名が参加した。福島教区からは1名の参加だった。

開式行事の後、本部講師・早田一郎先生の講話となった。「陽気ぐらしへ導くもの」とのタイトルの下「21世紀は日本の出番。」と言うダライ・ラマ法王、村上和雄氏らの言葉を軸に、陽気ぐらしをさせるためにこの世を始めた親神様を奉ずる天理教が出番であると話された。また『天理時報』の「和樂」というコラムの筆者という事でこれまでの記事のお話された。

続く「ねりあい」では岩手教区から成人塾について発表があった。参加者が小中高生計17名、スタッフ17名、2泊3日の日程で食事は婦人会のまかない、青年部が昼の流しそうめんの準備と、素晴らしい報告だった。最後に若干の質疑応答があった。

翌日の「ねりあい」では各教区毎に活動報告と問題点の提起がなされた。どの教区でも新規会員の加入不足が悩みの種で、とにかく教会長さん方に働きかけることが大切であろうとの意見だった。また教区で活動を十分に認知してもらうことが大切だとの事だった。（H・I）

学生会

「道の学生ひのきしんＤＡＹ」開催

9月13日(日)、福島教区学生会(橋本知恵委員長)では、福島教務支庁を中心に「道の学生ひのきしんＤＡＹ」を開催。23名の学生が参加した。

教務支庁に集合した参加者は、まず、ゴミ袋を手に教務支庁周辺でゴミ拾いのひのきしんを実施。タバコの吸殻や紙くずなどを一つ一つ丁寧に拾って歩いた。

昼からは、懇親も兼ねて「たこ焼きパーティー」。たこ焼きを焼きながら、さまざまな話題で盛り上がった。初参加者は「とても楽しかった。また参加したい。」と語っていた。橋本委員長は、「未信者の方にもたくさん参加していただき、ありがたかった。この勢いで、教祖百三十年祭学生おぢばがえり大会に多くの友と参加したい。」と話していた。

(Ｍ・Ｓ)

厚生部

「社会福祉研修会」開催

10月2日、教区厚生部(鈴木泰夫部長)では、社会福祉の現状や支援についての方法を学び、おたすけに役立てようと「社会福祉研修会」を教務支庁において開催。教区役職者など25名が参加した。

まず、専門里親を務める幕田好三先生(ファミリーホームテクラ施設長)が、「里親になりいろいろ苦労もあったが、里子が成人、結婚し、幸せになっていく姿を見ると、本当に良かったと思う。指導をいただきながら福島県で前例がない専門ホームを作ったが、里子を『育てる』ではなく一緒に生活することが一番大事だと思う。」と話された。

続いて、保護司を務める遊佐弘子先生(会達分教会)が、「罪を犯した人に再犯させないようにするためには、常に傍に誰かいて、その方の心を見守り、良き方へ育てることが大事だと思う。また常に警察や市役所、病院とネットワークを作っておくことも大事。」と話された。

(Ｙ・Ｓ)

婦人会

「南相馬仮設住宅ひのきしん」開催

去る10月9日（金）、福島教区婦人会（平澤栄美主任）では、「南相馬仮設住宅ひのきしん」を開催し、19名が参加した。

斎藤容久・猪苗代分教会長が、震災直後から支援を継続してきた縁のある南相馬牛越第4仮設住宅でひのきしん受け入れていただき、現場に到着した参加者は、午前中はまず、要望のあった10世帯に対し、2人1組で換気扇やエアコンフィルター、窓ガラスや網戸といったところの清掃ひのきしんを行った。

昼食後は、仮設入居者の方々と茶話会。スタッフと入居者が交互に座り、お話を聞き、肩を揉んだりと、和やかな時間を過ごした。（H・S）

道の教職員の集い

「総会」「きょういく講演会」開催

11月1日、福島教区道の教職員の集い（古川善一代表世話人）では、会津若松市の勤労青少年ホームにおいて「総会」と「きょういく講演会」を開催。「総会」には会員3名、「きょういく講演会」には9名が参加した。

総会では議事のあと、道の教職員の集い運営委員会相談役の中島道治先生がお話され、会員に活動に参加していただくために声をかけ続けていくことが大切と話された。

午後は、同じく中島道治先生を講師に迎えて、「子供の自主自立のために親が心掛けること」と題してお話をいただいた。児童養護施設に赴任した当時の児童の状態や様子を話した後、「ほめることで、脳の前頭前野が鍛えられ、待つ力、耐える力、善悪の判断力がついてくる。」「脳を活性化することにより、自尊感情が育ってくる。」「基本的な生活習慣、朝起きが心の安定の上で大切。」「徳を落とさない、徳をひろう。」と実際に指導してきたことを踏まえながら、親が心掛けることを話された。（Z・F）

基礎講座

「第18回天理教基礎講座」開催

昨年11月14日（土）、「第18回天理教基礎講座・福島会場」が開催されました。今回は、初の出張講座として、いわき市ラトブ（いわき支部）を会場に（講師・中島道治先生）開催させていただきました。

当日は、雨の中ではありましたが、一般の方9名を含む、54名の方が、いわき市内はもとより、相双・福島各支部管内、また茨城県からの受講者もいらっしゃいました。

中島先生の熱く語りかけたり、またユーモア溢れる講演に、受講者の方々は皆、熱心に耳を傾けておられました。今回の講演が最後になる中島先生自身、講演の最後には胸熱くなる場面もありました。

講演終了後、教区長先生より、退任される中島先生に記念品が贈呈されました。

本年も、布教の手立てとして「基礎講座」をご活用くださいますようお願い申しあげます。（M・Y）

本年の開講予定

- 5月29日（日）　13：30～　福島テルサ
- 9月10日（土）　会場未定
- 11月13日（日）　13：30～　福島テルサ

婦人会

「委員部長の集い」開催

去る11月30日（月）、福島教区婦人会（平澤栄美主任）では、委員部長の成人と相互の親睦を図るため、25名参加のもと「委員部長の集い」を福島教務支庁で開催した。

まず、目黒淳・元天理教校職員を講師に「女鳴物の練習」が行われた。先生が流す音源に合わせて、それぞれが女鳴物を弾き、自分のくせや音の違いを確認した。また、弾くときの姿勢や構え方、調子、さらに女鳴物の手入れと保管の方法など、細かいことまで教えていただいた。

その後、教務支庁周辺の神名流しを行い、暖かい陽射しの下、すがすがしい気持ちでつとめることができた。

昼食後は、再び目黒先生を囲んで質疑応答の時間が持たれ、参加者からは、「自分のくせや弾き方に間違いがあったことに気づくことができた。」「鳴物の扱い方を知ることができて、とても勉強になった。」「また勉強会をやってほしい。」といった声が聞かれた。（E・H）

第28回　女子青年大会

日々に親神様　教祖に心をつなぎ
ご恩報じのできる
女子青年に育ちましょう

10月30日午前10時
福島教務支庁にて開催

田村支部

「ようぼく成人講座」開催

田村支部（平澤八重支部長）では、10月18日（日）、三春分教会において生江一行先生（新河沼分教会長）を迎え、「スッキリ解決　不足の心」をテーマに「ようぼく成人講座」を開催、23名が参加した。

今回は年に2度目の開催になります。不足をしないで生きていく事は不可能ですが、一名一人の価値観の違いから現れる事象を、『教祖逸話篇』から学ばせていただき、また講師の体験から興味のあるお話しをいただき、不足を如何に喜びに変えて行くかを学ばせていただきました。

参加者にも大変喜んでいただき、今年も成人講座の年に2度の開催を目指して頑張りたいと思います。（T・A）

安達支部

「陽気ぐらし講座」を4会場で開催

講師は宇恵義昭先生　内容は「元気に生きる。」

11月16日　鳥居町公会堂　25名

11月17日　旧平石小学校浪江町仮設集会所　20名

11月17日　杉田農村広場浪江町仮設集会所　15名

11月18日　安達運動場浪江町仮設集会所　25名

「モンゴル国立子供宮殿楽団 復興支援演奏会」開催

「モンゴル国立子供宮殿楽団」が、「東京天理雅楽会」の協力を得て、宮城県と福島県の被災地で復興支援演奏会を開催した。

10月30日は、いわき市の「いわき総合高校」と「御厩小学校」「いわき中央台第9仮設住宅」で、31日は南相馬市の「イオン」と「磐城平大教会」で演奏会を行った。

教祖130年祭　学生おぢばがえり大会

3月28日　式典

1万人の動員を目指して

◎いっぱいコース（参加費　26,000円）

3月26日　福島県内発ー天理着
27日　別席、交歓会、前夜祭「Next Step 130」
28日　式典、直属アワー、交歓会
29日　ユニバーサルスタジオジャパン、大阪発
30日　朝 福島県内着

◎一心コース（参加費　15,000円）

3月27日　福島県内発ー天理着
28日　式典、直属アワー、交歓会
29日　天理発ー福島県内着